

ちろ特報部

「日本自立へ離党もその延長」

新党最後の闘い

小沢氏は今後、日本の政治にどんな影響を与えていくのか。

「小沢さんの影響力ははまともな人が残っている」と話すと、小沢さんを含めた「期待をしている人の」と思ったが、いな「方が安定する」と、当分中には、どうせなら民主は、側近だった元参院議員と批判し、「たとえ、国は影響力が持続するとの党に残って、首相になつてほしいという意見もある。議員をやめても小沢さんの方だ。」

「この二十年間、政治を引っ張ってきたのは歴史観があるから。日本が自立し、世界と共生できる体制に改革しなければならぬ」という基本がぶれない。今回の離党もその延長にすぎない」

「この二十年間、政治を引っ張ってきたのは歴史観があるから。日本が自立し、世界と共生できる体制に改革しなければならぬ」という基本がぶれない。今回の離党もその延長にすぎない」

1993年、新生党の出陣式で公認候補者を激励する羽田孜党首(中央)。左は小沢一郎代表幹事、右から2人目が石井一氏



2003年、民主党と自由党が合併した新民主党大会で手をつなぐ菅直人代表(左)と小沢一郎氏(右)。いずれも肩書は当時

「展望見えず終わりの始まり」

夫氏。「今回の離党、新党、約五十人の党立ち上げは過去と様相が違い、展望が見えなも事実。しかし、支持は減っており、現状を理解にしている時はあせりを感じている。かなりの危機感を持っているので、批判的な意見を言わせないので小沢さんの限界です」

「終わりの始まり。脱小沢が動き出したのでは苦戦を強いられるとないか。小沢さんは改革者のイメージがあり、変えてくれるという国民の期待があったが、今では永田町の外でなければ無理だと、橋下徹大阪市長や石原慎太郎東京都知事に移っている」

「これまで、誰かと連携を組むことで権力を維持してきたが、これからはもう組もうという相手を見いだせない。反消費増税を言っても、吸引力はないだろう」

政治評論家の森田実氏は「誰も支持するよう消費増税反対を掲げているのに、国民は冷ややか。つまり、あきたという(こと)でしょう」と手厳しい。その原因について「改革で良くなるやってくるが、良いものまでぶち壊し、信用を失ったから」という。

デスクメモ

「入るを量りて出するを制す」は家計の原則。借金で旅行や外食はせずに我慢する。国も同じなのに大借金額み予算を続けてきた。財務省は「入るを制す」と消費税の大増税で帳消しにと高みの見物だったのか。政治責任が重い民自公の談合合意は破棄し、公共事業や冗費削減案を示し民